

道

2017・5・24

通信 No 1440



《今日の練習》小坂先生全曲

合宿 5月27日(土)~28日(日)

三浦市南下浦市民センター 12:45分集合

《5月31日(水)練習3部》 6:40~7:40 阿部先生ヴォイトレ その後 中山先生全曲

《 幼少の頃のこと 》

中山英雄

(投稿記事)

先ず、幼稚園時代。唯一思い出すのは「とうごうさん」という歌。

日の丸の小旗を手で振りながら「とうごうさん、とうごうさん、とうごうさんは偉い人。軍艦三笠のマストの上に、高く掲げた日章旗、よせ来る敵を滅ぼして天皇陛下の御威光を世界の人に見せました。」

日本海海戦でロシアのバルチック艦隊を打ち破った東郷平八郎元帥をたたえる歌です。小2~6年(当時は国民学校)が太平洋戦争の時期と重なります。

それより前、小1の時最初の授業で教えられたのは日本の建国神話でした。神様が大海原(おおうなばら)で長い竿でかき回し、したたり落ちた4つの雫が日本列島になった。神の子孫である天皇が天から降ってきたところは九州の高天が原(たかまがはら)です。「天孫降臨」てんそんこうりんといひます。

小2、1941(昭和16年)12月8日。開戦のラジオ放送で世の中が慌ただしくなりました。この日を「大詔奉戴日」たいしょうほうたいびといひます。小2の授業中、先生が天皇の話をしている時女子生徒の一人が鼻をかみました。途端に先生が怒り出し授業中止になりました。体罰は腕立て伏せで廊下を歩かせるのです。後ろから先生が両足を抱えて……

このころの私は兄が兵隊に行くときに机の引き出しに残したハーモニカを覚えて軍歌ばかり吹いていました。小4、体育の授業では軍歌集を手に校庭を歌いながら行進しました。

「天に代わりて不義を打つ忠勇無双のわが兵は歓呼の声に送られて今ぞ出(い)で発つ父母の国、勝たずば生きて帰らじと誓う心の勇ましさ」

今もしっかりうたえます。「遠足」という言葉は無くなり「明日は行軍(こうぐん)だ」と言われました。ニュースは何も報道されず、東京大空襲も沖縄戦もヒロシマもナガサキも何も知りませんでした。(地震のニュースもなかった)

1945年(昭和20年)7月4日徳島市の大空襲で文字どりの火の海の中を山に逃げ洞穴の中で一夜を過ごしました。空が明るくなり山麓の神社の境内では10数体の焼死体を見ました。

8月15日敗戦の日、昼頃に戦争が終わったらしいという話を聞きました。

「神風神話」で100%勝つと信じ込んでいた私たち家族は、戦争の終わりは勝利以外は考えられず「勝った」と思い違いをしていました。

全員喜んで「天皇陛下万歳」を叫びました。

「教育勅語」による教育がどんなに恐ろしく悲惨なものか思い出すとぞっとします。

反戦を叫ぶ人は全て獄にとらわれていました。

2017年5月

《委員会の予定》

5月27日(土) 合宿夕食前 企画選曲委員会

5月31日(水) 4時~ 企画選曲委員会 県民サポートセンター

本日の片づけ

アルトとテノール